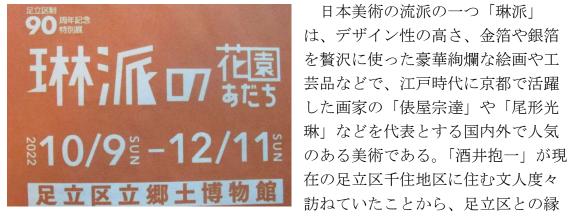
琳派の花園あだち

足立区立郷土博物館(足立区大谷田) 22.10.09~12.11



日本美術の流派の一つ「琳派」 は、デザイン性の高さ、金箔や銀箔 を贅沢に使った豪華絢爛な絵画や工 芸品などで、江戸時代に京都で活躍 した画家の「俵屋宗達」や「尾形光 琳」などを代表とする国内外で人気 在の足立区千住地区に住む文人度々 訪ねていたことから、足立区との縁

が深いとされ、弟子の「鈴木其一」門下の「村越其栄」が当地に居を構えてい たため、多くの作品が区内の神社や個人宅などに残されている。

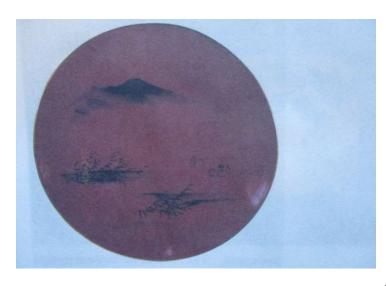
本展は、"絵の主役になる花や動物を浮きたたせるデザイン性の高さや、金 箔の豪華さと涼やかな銀箔の美しさ"を十分に堪能することができる。



村越其栄《秋草図屛風》

江戸時代後期

画伯は、鈴木其一に絵を 学んだ千住の琳派絵師で、 ひまわりや朝顔と共に秋の 草花を描いている。



酒井抱一 下絵・原羊遊 斎 蒔絵《筑波山に都鳥墨 切蒔絵大盃》1817年

筑波山を背景に、墨田川 を象徴する3羽の都鳥(ユ リカモメ)が、川辺に遊ぶ 姿が黒漆(こくしつ)で描 かれている。

画伯が下絵を描いた盃 は、文化14年に開催され た2度目の酒合戦で実際に 使用されたとされている。